

<2022年度防災教育チャレンジプラン 活動報告会>

コロナ禍における持続的に発展可能な

福祉避難所開設計画

東京都立調布特別支援学校

生活指導主任 常松 浩三郎

- 1 調布という地域について
- 2 調布特別支援学校について
- 3 今年度の取組について
- 4 理想を思い描いて

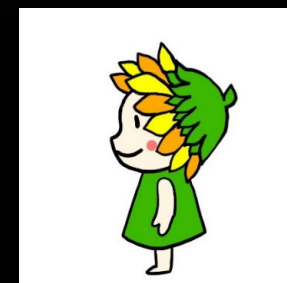
1 調布という地域について



東京都立調布特別支援学校

2 調布特別支援学校について

- 小学部と中学部の知的障害特別支援学校
- 1976年開校（当時は児童生徒45名・教職員31名）
- 現在、児童生徒163名・教職員76名
- 地域とのつながりが深い（防災協定、リソース・ネット）
- 「地域」に生き、ともに伸びる学校



本校キャラクター
にじまる



3 今年度の取組について 毎月

- 防災に関する会合

調布市の総合防災安全課の会議室等で協議

- リソース・ネットの定例会

電気通信大学の創立80周年記念会館等で協議

3 今年度の取組について 4月

● 4月23日：「調布市防災教育の日」

◎ 調布市福祉避難所開設訓練（西部地域福祉センター）

福祉避難所の開設に必要な事柄を学んだ



東京都立調布特別支援学校



3 今年度の取組について 5月

●5月6日：教職員の非常配備態勢を距離別・部門別に

○教職員を災害対策本部、連絡班、施設班、食糧班、
救護班、避難所支援班、経営企画室 の各部門に配備

○家からの距離が近い人が責任をもって対応する形に

(4) 教職員の役割分担と配備態勢 ※居住地までの直線距離で割り振っている。●は生活指導部

部 門	災害対策本部 (危機管理委員)	連絡班 (学年主任)	施設班 (生活/教務/情報)	食糧班 (家庭科/教相他)	救護班 (保健/研究)	避難所支援班 (進路/生活/情報)	経営企画室 (栄養士以外)
班 長	常松 浩三郎	大森 重太郎	中村 優子	大久保 麻衣子	木村 真紀子	金谷 翔太	酒井 彩華
危機管理 担当職員 5 km以内	屋間 友彦	柴田 亜伊子 小澤 英子 橋本 彩子 大森 重太郎● 杉原 菊江	川又 さや香● 野村 千里 池野 裕美● 前田 裕子● 中村 優子●	加藤 愛美 太田 彩香	田中 聡子 菊地 雅代 吉田 拓朗 木村 真紀子	加藤 幸吉 金井 牧子 山根 由香理 齋藤 秀太郎 金谷 翔太● 岸 恭子	酒井 彩華 森 麻美 (佐々 美保子) (高鶴 ゆら)
第一配備職員 5 km超 10km以内	常松 浩三郎● 二宮 敬子 鷺尾 圭介●	古川 淳一	武田 萌 大家 英士 飯田 芽生 戸田 典孝 横山 亜紀 望月 しおり	押 美香子 高佐 貴美子 西田 恵美子 後藤 圭子 大久保 麻衣子	十文字 美和 中村 美穂 川畑 靖子	人見 郁 須藤 友梨 外山 幸江 石川 美絵 岩船 夏海 金 直子	中村 実 (小川 亜梨沙)
第二配備職員 10km超 20km以内	本田 みゆき 吉田 輝世 平本 智哉 久保田 聡	鬼岩 真也● 山中 美枝 吉田 輝世	中山 雄貴● 管 武男●	渡邊 優美 八木澤 範雄 滝澤 千恵子 長瀬 理恵 武井 絵美歌	百瀬 亜希 渡邊 絵梨	小島 康照 丸山 亮太●	(金田 禎彦) (佐藤 麻璃奈) (金澤 南) (池田 彩乃)
特例配備職員 20km超	原田 勝◎ 山村 知子 鷹野 泰男		大谷 貴志● 太田 宏		高橋 美代	朝倉 文子 長谷川 千佳●	(渡邊 麻衣)

(5) 配備に当たって 距離、人数、男女比、分掌、教科、専門等を考慮し、全体のバランスを見て調整した。

- ア 災害対策本部...11名 (男7・女4)。危機管理委員。
- イ 連絡班.....9名 (男3・女6)。学年主任。本部への連絡や本部からの伝達にあたる。
- ウ 施設班.....15名 (男6・女9)。生活指導部7、教務部5、情報教育部3。災害直後に重要な役割を担う。生活指導部を中心に、教務部、情報教育部を配置。
- エ 食糧班.....12名 (男1・女11)。栄養士1、給食主任1、家庭科教員1、家庭教科会1、教育相談部8。調理に詳しい人や給食に責任のある人を配置。
- オ 救護班.....10名 (男1・女9)。養護教諭2、保健給食部3、研究研修部5。
- カ 避難所支援班...16名 (男5・女11)。進路地域部7、生活指導部3、情報教育部3、非常勤教員3。福祉避難所の運営等で地域住民と接する。進路地域部を中心に、生活指導部、情報教育部、非常勤教員を配置。
- キ 経営企画室.....3名 (男1・女2)。栄養士を除く経営企画室職員。

3 今年度の取組について 6月

- 6月1日：大塚ウェルネスベンディングとの連携
非常時にも平時にも活用できる自動販売機や防災ベンチ
- 6月1日：第1回災害用伝言ダイヤル171体験
保護者と教職員を対象に年3回実施

日 時 令和4年6月1日（水） 17時から24時まで

場 所 電話のかけられる場所（室内、屋外どちらでも可）



- 体験方法**
- ① 17時から24時までの御都合のつく時間に電話※で「171」をダイヤルする。
※固定電話、携帯電話、スマートフォン等の使用が可能。
 - ② 音声ガイダンスに従って「2」（伝言の再生）をダイヤルする。
 - ③ 音声ガイダンスに従って「042 487 7221」（本校の電話番号）をダイヤルする。
 - ④ プッシュ式電話機の場合、音声ガイダンスに従って「1」をダイヤルする。
 - ⑤ 録音されたメッセージを聞く。
 - ⑥ 聞き終わったら電話を切る。
 - ⑦ アンケート用紙に御意見・御感想を記入し、学校に提出する。

（↓切り取って御活用ください。）

災害用伝言ダイヤル171の操作方法

- ① 電話で「171」をダイヤル。
- ② 音声ガイダンスに従って「2」をダイヤル。
- ③ 音声ガイダンスに従って「042 487 7221」（本校の電話番号）をダイヤル。
- ④ プッシュ式電話機の場合、音声ガイダンスに従って「1」をダイヤル。
- ⑤ 録音されたメッセージを聞く。
- ⑥ 聞き終わったら電話を切る。

- その他**
- ・ 所定の通信料・通話料がかかります。
 - ・ 次回は11月15日（火）を予定しています。

.....切り取り.....

令和4年度 第1回災害用伝言ダイヤル171体験 アンケート
災害用伝言ダイヤル171体験について御意見・御感想をお寄せください。

3 今年度の取組について 7月

- 7月1日：総合防災訓練

- ◎地震避難訓練（抜き打ち、障害物）

- ◎「防災に関する授業」（全学年）

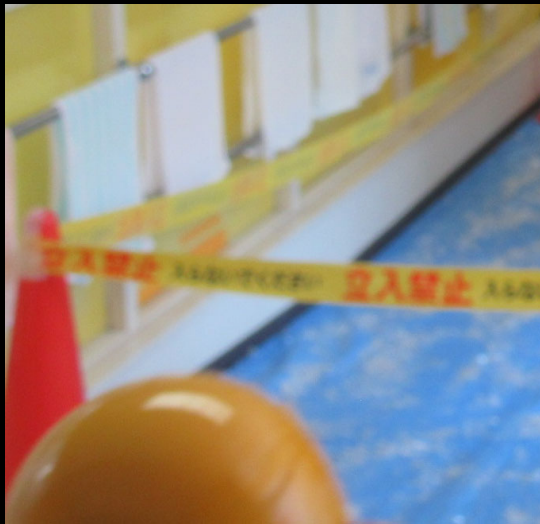
児童・生徒の実態に合わせて各学年で創意工夫

- ◎第1回防災教育推進委員会

テーマ「地域のニーズに対応する防災体制の構築について」

委員は消防、警察、行政、教育機関、地域住民、PTA等

東京都立調布特別支援学校



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 7月

◎帰宅支援ステーションの開設に向けた訓練

総合防災安全課、文化生涯学習課、男女共同参画推進課 等

◎福祉避難所の開設に向けた訓練

コスモ調布ヶ丘、リソース・ネット、総合防災安全課、
障害福祉課、市防災対策検討委員会 等



3 今年度の取組について 7月

●7月1日夕～2日朝：宿泊防災訓練

○保護者・教職員への通信訓練（5回）

○火災避難訓練・初期消火訓練・防災講話（消防署と連携）

○非常食作成訓練・非常食体験（リソース・ネットと連携）

○災害備蓄品利用訓練「暗闇体験」

○引き渡し訓練 等



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 8月

- 8月1日：大塚包装工業との連携
段ボール製の非常用簡易トイレ、ベッド、つい立て
- 8月31日：DXアンテナとの連携
携帯電話での遠隔操作による「鍵ボックス」の開錠・施錠



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 9月

●9月9日：自動販売機の導入を正式に決定

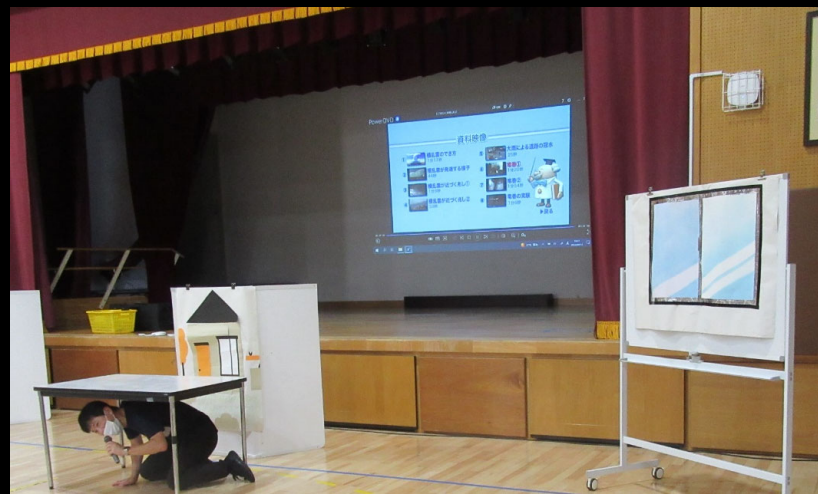
●9月12日：風水害避難訓練

○急な大雨、雷、竜巻への避難の仕方を学ぶ

①災害イメージの具体化

②具体的な避難の選択と実践

（一斉に避難する従来の訓練とは全く異なる形）



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 9月

- 9月14日：DXアンテナを交えた防災に関する会合
本校、調布市、電気通信大学の担当者と共に
- 9月15日：調布市帰宅困難者対策協議会
地域の放送局とのつながりが深まる
 - 調布エフエム放送（ラジオ）
 - ジェイコム東京調布局（ケーブルテレビ）

3 今年度の取組について 10月

●10月25日：異臭による二次避難訓練

○隣接するマンションで異臭が発生

○マンションの住人から学校に異臭発生連絡

○校庭避難 ⇒ 電気通信大学への二次避難

○マンションの住人等、地域による児童生徒の見守り

◎第2回防災教育推進委員会

テーマ「地域と連携した防災教育の充実について」



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 11月

- 11月15日：第2回災害用伝言ダイヤル171体験

- 学校の電話番号の語呂合わせを考えた

042-487-7221「和室、夜、花、夏にいい」

- 11月25日：地震の取組と起震車体験訓練（消防署と）

- シェイクアウト訓練の後、起震車体験へ

- 3年ぶりに児童生徒全員に実施



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 12月

●12月13日：放送によらない地震避難訓練

地元の放送局との初連携

（調布エフエム放送、ジェイコム東京調布局）

- ①地震の後、停電になり、放送機器が使えなくなる
- ②拡声器や肉声で周囲に伝え、初動巡視による安全確認へ
- ③本部に報告に来た学年主任にトランシーバーを渡す
- ④トランシーバーで本部から学年主任に指示を出す



東京都立調布特別支援学校

3 今年度の取組について 1月

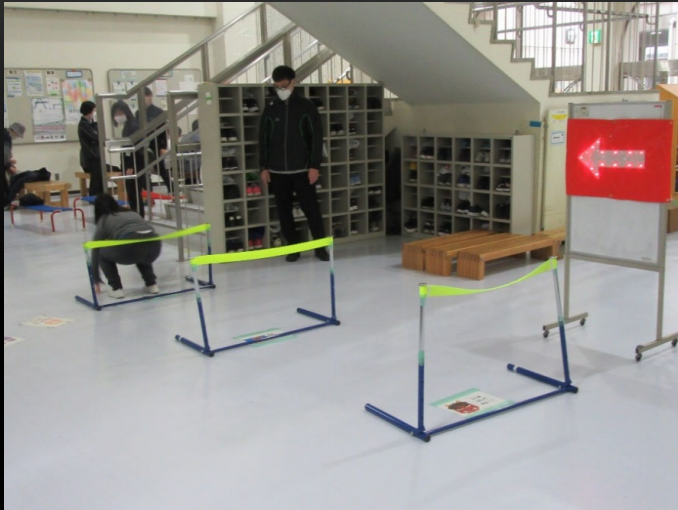
- 1月16日：火災の取組と煙体験訓練（消防署と連携）

- だんだん低くなるハードルを三つくぐる（イラスト付き）

- 消防署の人の話を聴き、煙体験ハウスに入る

- 児童生徒全員に実施

- 外部の人にも体験の時間を提供

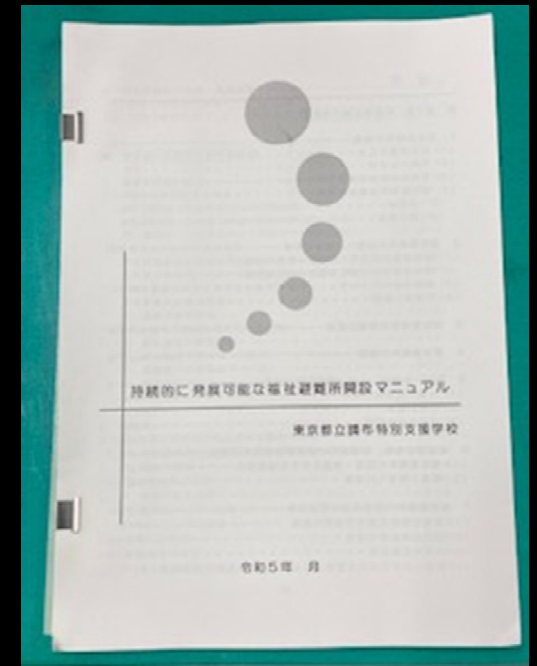


東京都立調布特別支援学校

4 理想を思い描いて

【課題】

- 「持続的に発展可能な福祉避難所開設マニュアル」の作成
- 福祉避難所を利用する人が
安心して過ごせるための方策の充実
- 「鍵ボックス」の実用化 等



4 理想を思い描いて

【実現させたいこと】

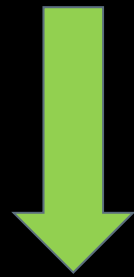
- ◎特別支援学校が災害時に福祉避難所になる
 - そこに行けば安心して過ごせる
 - 障害の特性に応じた対応がなされる
 - イライラしたときに落ち着けるスペースもある

4 理想を思い描いて

防災の取組の創意工夫 身近でユニークな防災教育

学校と地域が連携した訓練 防災意識の向上

防災計画の不断の検討 知恵の結集 等



地域の防災力の強化

災害に強い地域をつくるため
理想を描き 現実との落差を埋めていく



ありがとうございました

東京都立調布特別支援学校